

日本リハビリテーション医学会市民公開講座 障害者をたすける介助犬のことを知ろう！

横浜市立大学医学部リハビリテーション科学 中村 健

日本リハビリテーション医学会市民公開講座「障害者をたすける介助犬のことを知ろう！」を関東地方会が担当し、社会福祉法人日本介助犬協会、神奈川県、横浜市にご後援をいただき、2025年2月9日（日）に横浜市神奈川公会堂で開催しました。

介助犬は、身体の不自由な方の活動を助け生活をサポートする重要な役割を果たしています。2002年5月22日に身体障害者補助犬法（通称：補助犬法）が成立し、補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）が障害者の自立および社会参加の促進に寄与することが法的に示されました。ただ、法律が施行され20年以上経過した現在においても、一般市民の介助犬への認知度は低く、介助犬による障害者への支援は充分とはいえない状況にあります。介助犬による支援が必要とされている肢体不自由者は約15,000人いるといわれていますが、介助犬の実働頭数は60頭（2024年9月末時点）となっています。また、介助犬育成のための費用の約90%は寄附金で賄っており、現状では必要とされる介助犬を育成するための費用も充分ではないのが現状です。介助犬による障害者への支援を充足させていくためには、広く一般市民の皆さんに介助犬のことを知っていただくことが重要です。

そこで、市民の皆さんに広く介助犬のことを知ってもらう機会の1つとして、この市民公開講座を開催しました。市民公開講座では、まず日本介助犬協会理事長の高柳友子先生にお話をいただきました。次に、シンポジウムを行い、日本



シンポジウムの様子



介助犬によるデモンストレーション

介助犬協会センター長の遠藤大輔様、千葉県千葉リハビリテーションセンターセンター長の菊地尚久先生にお話をいただき、2名のユーザーさんから体験談をお聞きました。さらに、介助犬のデモンストレーションや市民の皆さんに参加してもらう介助犬のお仕事体験も行いました。参加者からの質問も沢山あり、楽しい雰囲気の中、市民の皆さんに介助犬のことを知ってもらう大変有意義な市民公開講座となりました。